

# マイクロエンドドンティクス：天然歯保存への貢献

興地隆史

東京医科歯科大学（TMDU）大学院医歯学総合研究科  
口腔機能再構築学講座歯髄生物学分野

## 抄録

歯内療法への手術用実体顕微鏡（マイクロスコープ）の導入は、その臨床を大きく変貌させた。マイクロスコープの有用性は、多くの視覚情報が明るい拡大視野のもとでもたらされることから、歯内療法のさまざまな局面においてその確実性、精度、さらには安全性を向上させる点にあると端的に述べることができる。また、さまざまな機材、術式の開発によりマイクロエンドドンティクスの適応症の拡大も図られている。マイクロスコープの有用性を享受できる処置として、確認困難な根管口の探索、根管充填材やポストの除去、歯根の亀裂や破折の確認、根管ない破折器具の除去、穿孔封鎖、槌状根管やイスマスなどの複雑な解剖携帯の確認と処置、さらには根尖切除と逆根管充填などをあげることができる。以上のことから、マイクロスコープの使用によって、歯の喪失につながるさまざまな歯内療法的問題点の解決を図ることができる。

本講演では、マイクロエンドドンティクスがいかに天然歯の保存の限界の拡大に貢献しているかを考えてみたい。

## 略歴

1984年	東京医科歯科大学卒業
1988年	東京医科歯科大学大学院修了
1996年	PhD（イエテボリ大学）
2001-2003年	新潟大学歯学部附属病院総合診療部教授
2003-2014年	新潟大学大学院医歯学総合研究科う蝕学分野教授
2015年-	東京医科歯科大学（TMDU）大学院医歯学総合研究科歯髄生物学分野教授